



Atsushi Mekaru

銘苺 淳の HAPPY HANDBALL

vol.10

PROFILE

1985年4月3日生まれ、26才。沖縄県浦添市出身。港川中で野球から転向してハンドボールをスタート。那覇西高一筑波大を経てトヨタ車体に進み、時代を変えるセンターとしての期待を集めて躍動中。ひたむきな取り組み、明るく快活な性格で、ワールドクラスのコミュニケーション能力を誇る『ハンドボール界の松岡修造』。連日更新しているブログ「おにあくま」(<http://meka-atsu.jugem.jp/>)も好評だ。

おごらず、にくまず、あせらず、くさらず、まけるな!!!

『言葉の力』について

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と思わず言いたくなるような季節です。同時に実り多き会話が増えるといいですね。というわけで今月は言葉について。

今でも忘れもしないのですが、私が中学生の時のことです。国語の時間に大岡信さんが書いた「言葉の力」を学びました。中高生は読んだことがあるのではないのでしょうか？

少し概要を説明すると、ある日、強く美しく、華やかで目と心を吸い込むようなピンク色の着物について染色家の方に尋ねます。「これはなにから染めたものですか」と。染色家の方は「桜です」と答えます。大岡さんはこの時、桜の花びらから染めたと思ったそうです。しかし実際は桜のゴツゴツした幹の皮からこのピンク色は抽出されるとのこと。

その時に大岡さんは、桜の花びら一枚一枚は言葉の一語一語と同じだと思ったそうです。一見して想像できませんが、あの焦げ茶色っぽい幹がピンク色を創り出し、花びらはその一部でしかないということです。桜は花びらがピンク色を出しているのではなく、桜の樹全体でピンク色を出しているんです。同じように言



自分色に染まった言葉で周りを幸せにしよう

葉の一語一語は「言葉」として存在するのではなく、「その人全体を映すほんの一部」として存在し、その価値が生まれてくるのです。

言葉のバックグラウンド

言葉の一語一語というのは発したその人全体を背負っています。

この夏、インターハイで優勝した小林秀峰高校の評判は遠く愛知にいる私にもさまざまな方法で伝わってきました。選手たち全員が大会役員や運営の方にすれ違うたびにしっかりとあいさつをしたそうです。私の推測ですが、これはきっと監督の北林先生がお世話になっている人にしっかりとあいさつするのを選手が見ていて、そんな北林先生が「あいさつをしよう」と伝え続けているからだと思います。それが自分は偉そうに歩いてあいさつもしない監督が「おい、あいさつをしる!!」と怒鳴ったところで、選手たちはその監督が見ていないところではあいさつなんてしないでしょう。

言葉というのは不思議なもので、発した人やタイミングなどによって、心をスルーするか、生きて心に染み入るかが決まってきました。いくらきれいな言葉や一般的正論を並べても、その発する人全体を映すので、琴線に触れるかどうかは別の問題です。

言葉は消せない

現在、憲法21条で表現、言論の自由は認められています。その方法論として、今は中高生でもブログなどで容易に、公に表現することは可能になっています。

しかし、自由と責任は一体です。私も「言葉は消せない」と現U-16男子の監督である小波津先生に教えてもらいました。発言したことは消せないし、その言葉がどれほどの影響力があるのかということも考えなくてははいけません。

私は講習会で「安心しろ。今日はメカカルがキミたちをハンドボールで足の先から髪の毛の先までうーんと幸せにして帰してあげる☆」と言う時があります。

実際幸せになったかどうかはわかりませんが、自分で発した言葉に責任を持って、子供たちにハンドボールを楽しんでもらうという闘いを自分の中でしています(笑)。

なにをどう伝えるか

言葉というのはものすごく便利です。でも言葉だけに頼ってもいけません。ある研究では話す内容は全体の7%程度で、それよりも声の大きさや抑揚、顔の表情などでその内容が伝わるといことがわかっています。それら言葉以外のコミュニケーションのことをノンバーバルコミュニケーションというのですが、ハンドボールの場面でもひんぱんに見られます。アイコンタクトでポストの動きがわかったり、ボディランゲージでパスコースを示したり、ハイタッチで喜びを共有したりします。言葉以上に伝わることって結構あるんですよ。

言葉に力を持たせるというのは、なにを言ったかよりも、なにをどう伝えるかです。私たちは間違ふことが怖いとか、めだつのが嫌だとか、自分の考えよりも先生がなにを考えているんだろうと探したりしてしまいます。でも本当に大事なものは自分の考えを、自分の言葉として自分の口から発し、表現することが大事です。すべてを否定せずに受け入れる環境があると発言は増えてきます。つねに建設的な会話、ポジティブな発言が生まれるハンドボールコートであってほしいですね。

自分らしく!の色を

最後に言葉の力を最大限発揮する方法論として、自分の想いを乗せて書くことができ、情景を思い浮かべながら何度も読み返せる手紙を、私はおススメします。

みなさんもオリンピック予選を闘う日本代表選手に声や手紙として届けてみませんか？

言葉の1つひとつには自分の色がついています。方法論はそれぞれですが、桜の花を見て心が和らぐように、自分色に染まった言葉で周りの人たちを幸せにする、そんな太くたくましく、大きな幹をハンドボールを通して育てていきたいですね。